西脇稻次著述

寫眞之秘密

九穗書房藏版

特46
187

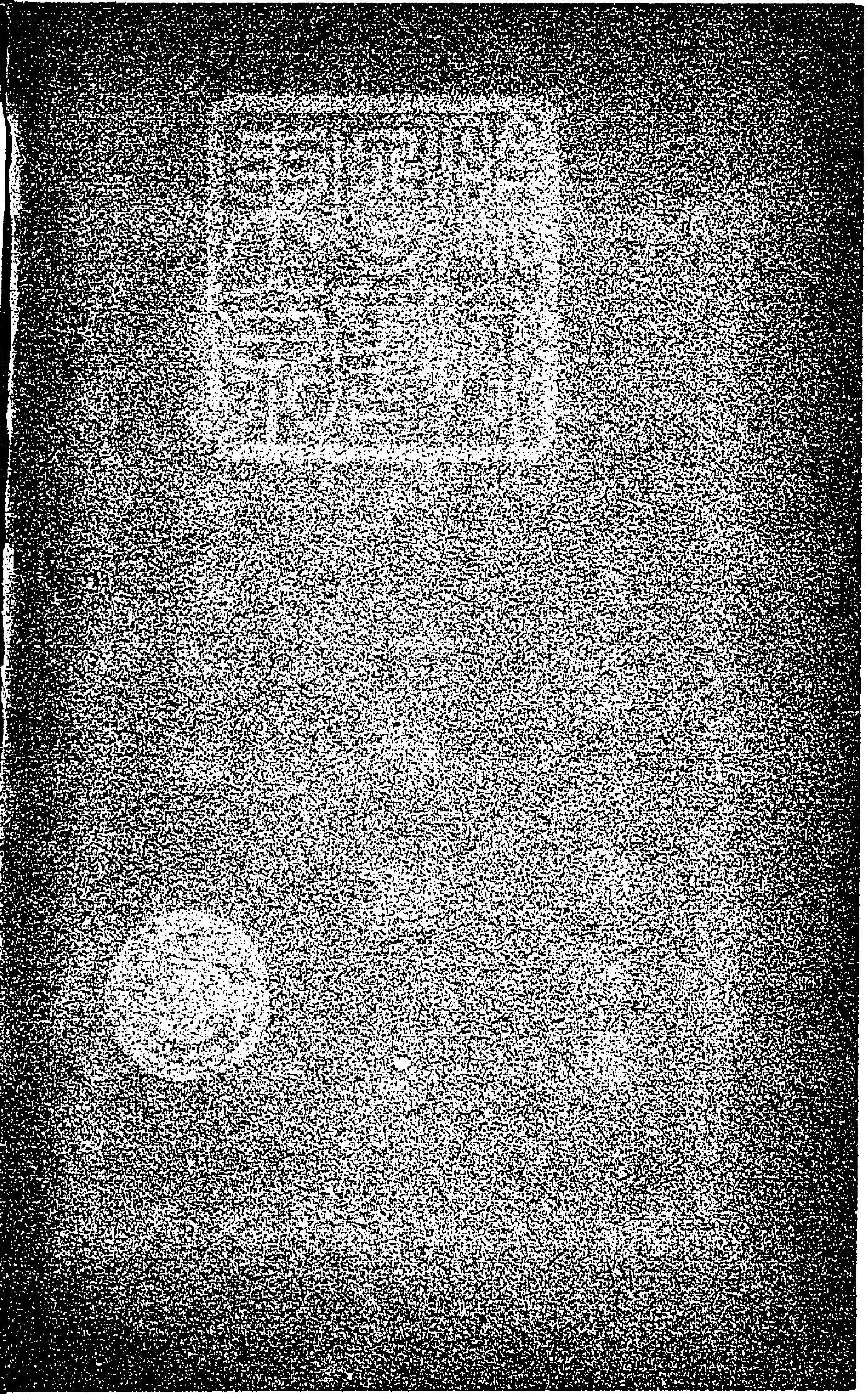
西脇稻次著述

寫眞之秘密 全

九穗書房藏版

本書ハ特ニ寫眞初學者ノ爲メニ余ガ經驗ニ徵シ著述シタルモノ其文通ノ簡易ナルハ見ル者ヲシテ一讀ノ下了然タラシムルニアリ而シテ其示ス處ハ此技術ニ於ケル蘊奥ノ秘密ヲ包マズ責ヲ己レニ負フテ假令如何ナル人トシテ此書ニ基キ其好結果ナル奏功ヲ見ザルナキヲ誓フモノナリ

近頃寫眞ノ發達ト共ニ其道機關雜誌ノ發行少ナカラズ然リト雖モ此レ普通寫眞社界ニ應用スル其斬新ナル技術ヲ知ラシムルニ止マリ初學者ノ素ヨリ解スルニ難ズル所又此機ニ乘シ奸智巧利ノ徒輩出シ唯其技ノ一班ヲ示シ不道ヲ傳習料ヲ貪ボリ以テ世ノ好事家



ヲ濫着セントス豈ニ痛嘆ノ至リナラズヤ余此道ニ心ヲ用フル事久シ茲ニ此書ヲ著シ最モ平易ニ簡明ニ心アルモノヲシテ懇切ニ此道ニ誘ヒ世ノ狤猾ナル奴輩ヲシテ後ヘニ瞠着タラシメントス

唯乞フ諸賢子此書ヲ見ルコト尋常一様ニ行ハルヽ獨習書ノ如キモノト同視セラルヽナカラン事ヲ

明治廿八年九月

著者識

寫眞術應用之發達

寫眞の始めて發明せられたるは今より凡そ五十年に上らず其我國に傳はりしは開港の前にて内田九一、櫻川蓮杖の諸氏が始めて之れを學びしより僅に四十二三年に過ぎずして開港後も維新の際までは其發達極めて遲々たりしが世は明治の聖代となり此技術ハ俄然長足の進歩を呈し其頃まで專ら硝子取りのみなりしもの漸く紙取りとなり内田櫻川(方今下岡と改姓す)諸氏の門下亦多くの名手を出し其後特に海外に遊びて此道を修むる者前後輩出し中島待乳、江崎禮二、江木保男、小川一眞、鈴木眞一、丸木利陽の諸氏は皆歐米に

歷遊し歸朝の後盛に門戸を張り就中最近二三年來寫眞專門家ならずして想を此道に潛むるもの多く華族にて故徳川篤敬、戸田氏共、伊達宗陳、龜井茲明の諸氏豪商にては鹿島清兵衛氏の如き學者にては理學士石川巖氏の如き皆力を此道に盡され又理科大學御雇敎師バルトン氏の如きは世界屈指の寫眞家にして又我國の爲めに此術に對し贊助する所多く徳川、戸田、伊達、鹿島、石川諸氏の發企になれる大日本寫眞品評會は月次集會して此道の發達を謀り其機關には寫眞集誌を發兌し又バルトン氏等は内外の有志を以て大日本寫眞會を組織して其機關には大日本寫眞會雜誌を發兌し

又寫眞器械問屋小西六右衛門氏は獨力を以て寫眞月報を發兌し又今回征清軍の事あるや名古屋扶桑新聞の記者鈴木經勳氏は寫眞師として第一軍に從ひ平壤の戰況を撮影し日本郵船會社々員某氏は西京丸に乘りて黄海の海戰を撮影し第二軍には有名なる龜井茲明伯の親ら從軍せられし外に參謀本部陸地測量部技師小倉倹司氏、仙臺の寫眞師近藤陸朗氏等も從軍して大同江口より金州旅順の各地到る處に撮影し其他尙は寫眞器を携へて從軍したる者も多しと聞けば其の寫眞の皆世に出る日には戰地の景況は何人も座して其眞を見るの想あるを得べし而して其寫眞を廣く世に

示す方法は四五年前まで僅かに石版に彫刻するのみなりしが曾て製紙分社の星野錫氏、米國に渡りてアートタイプ(寫眞版)の方法を傳へ來り其後小川一眞氏亦米國に渡りて寫眞銅版の法を學び次で猶興社の堀健吉氏も亦寫眞銅版を米國に學びて歸朝し此の小川氏の寫眞銅版より寫眞と活版とを共に印刷するを得るに至り其の功用の上に最も長足の進歩を呈したり」去れば當初の寫眞は僅に人の面貌若くは地の形勝を撮影して賞翫し古人千里一堂に會し殊域の山川を膝下に眺むる快あるに過ぎざりしが今は之を以て行政上、軍事上、科學上、美術上、工業上に於て秒時も缺くべか

らざる必要術となれり例へば行政上には警察又は監獄に於て嫌疑者を逮捕し囚徒の逃亡を防ぐ際寫眞を以て搜索の第一捷徑となし軍事上には水陸の測量若くは敵情の偵察等に用ひ科學上には或は顯微鏡を以て微細の實物を伸ばし肉眼にて見る事を得せしめ或は日蝕月蝕金星の太陽面經過彗星等の現象を撮影して氣象學上に應用し若くは地理、地質、人類、生理の諸學の如き總て實物を以て說明するものは寫眞の力を借りて始めて發達し又美術上にも山水、草木、翎毛、人物等の寫生は勿論或は古器物古書畫の如き寫眞の力によりて能く幾多の參考資料を得るに至りたり故に世運

の進歩に伴ふて寫眞術應用の範囲は日に月に増して殆んど測り知る可らざらんとす聞く倫敦にては日刊の寫眞新聞の盛んに發刊せらるゝありと惟ふに我國にても早晩寫眞新聞を發刊するに至るなるべし寫眞の進歩と其功用とは大なりと謂ふべし

之れ太陽第一號にあり轉載して以て緒言に代ふと云爾

凡例

寫眞ヲ撮影セントナラバ幾多煩勞ナル手續キヲ經ザル可カラズ左ルヲ世ノ此道ニ闇キモノ一ノ器械ト二三ノ藥品ヲ以テ直グ樣紙ニ寫サル、モノトナシ其闇處ニ入ルハ其秘傳ヲ人ニ漏サンヲ恐レテナリト僻見ヲ下シ其術ヲ知得スルニ至リテハ最モ簡易ナル如シ想フナレド實際然ラズ其初メ乾板ナル硝子板ニ物体ノ影像ヲ捉リ之レニ藥品ノ作用ヲ以テ物体ヲ現像シ更ラニ再三ノ手數ヲ經テ始メテ種板ト名ツクル原板ヲ得之レヲ感光紙ト名ツクル紙ニ複寫シ色ヲ出スニ鍍金法ヲ以テシ定着法ヲ行フテ畫面ヲ紙ニ固着セシメ茲ニ漸ク紙寫眞ヲ得ラル、モノニシテ此間常ニ光線ヲ避クル爲メニ闇處ニ取扱フナリ而シテ之レヲ

寫眞之秘密

目次

第一章　寫眞器械
第二章　闇室之構造及闇室代用寫眞ランプ
第三章　乾板及種板法藥品幷藥品調合法
第四章　雞卵紙塗銀法
第五章　撮影法　景色及人物
第六章　乾板現象法
第七章　種板仕上法及修整法
第八章　印畫燒付法
第九章　印畫鍍金法及定着法
第十章　印畫貼付法及艶出シ法

壮上歩覺ルニ深少クトモ二百日以上ヲ費サヾル可カラザルナリ初心者宜シク此書ニ就キテ反覆熟讀胸裡ニ暗記シ然而ヲ其技ニ取掛必以經學實驗

濕板寫眞法

寫眞之秘密附錄
第一章　アリスト紙印畫法
第二章　原板ノ瑕瑾及治療法
第三章　印畫ノ瑕瑾及治療法

目次畢

寫眞之秘密

西脇稻次著

第一章　寫眞器械

鏡玉、シボリ板、暗箱、ピント硝子、取枠、三脚臺、黒被布、焼枠等ハ物体ヲ寫眞セントシ最モ必要ナル器具ノ名稱ニシテ此器具使用ノ巧拙ニヨリテ大ヰニ物体ノ撮影上ニ及ボスモノナレバ先ヅ使用ニ付テ方法ヲ理解セザル可カラズ

鏡玉[illegible]形玻璃鏡ニシテ金屬製ノレンズ筒ニ嵌メ込ミテ用フルモノ單鏡複鏡ノ別アリ單鏡トハ一枚ノ玻璃鏡玉ヲ以テ寫シ得ルモノ複鏡トハ二枚以上ヲ嵌メ込ミ寫シ得ルモノニシテ前面ニ蓋ヲ設ケ後部ハ暗箱ノ前面ニ差シ込ム

様トナシタリ物体ヲ撮影スルニ當リレンズノ蓋ヲ放チ之レニ光線ヲ撮集スルモノナリ此鏡玉ノ精粗ニヨリテ寫ル所ノ鮮明トナリ不鮮明トナリ隨ツテ好結果トハナリ不結果トハナルナリ然リト雖モ強チニ鏡玉粗造ナルガ故ニ寫ラズト言フ可ラズ嘗テ南亜非利加「ヅールー」戰爭ニ從軍シタル某氏ハ其戰況ヲ撮影セシト思ヒシガ其寫眞器具ヲ求メタルノ便ナカリシヲ以テ望遠鏡ノ鏡玉ト煙草箱ヲ用ヒテ試ミタルニ一ノ寫眞ヲ得タル佳話モ聞キタリ左レド初進者ハ餘リ粗造ナルヲ用フレバ大ヰニ其練習ノ發達ヲ妨グルモノナレバ宜シク相當ナルモノヲ用フベキナリ而シテ最モ注意ヲ要スルハ鏡玉ニ塵芥ノ付着シテ曇リヲ生ゼヌ様時ニ望ミ絹布ナドノ柔カキ切レニテ透明ニ拭フコ

トヲ勉メザル可カラズカリニモ一點ノ纎芥ダモ附着シアルトキハ大ヰニ寫リノ鮮明ヲ妨害スルモノナリ

シボリ板ハレンズ筒ニ附屬シタル金物製ノ薄板ニシテ數枚ヲ一組トナシ一枚毎中央ニ丸キ穴ヲキリ抜キ穴ニ大小ノ差アリ假リニ大ナルヲ一番シボリ次ナルヲ二番シボリ或ハ三番四番ト順次名付ケ撮影ノ際レンズ筒ニ差シ込ミ物体遠近位置ノ光線適度ヲ定ムル最必用ノモノナリ又シボリ板ノレンズ筒ニ造リ付ケタルモアリ

暗箱ハ光線ノ毫モ注射セヌ様仕掛ケタル木製ノ箱ニシテ普通引出レ箱トテ焦點（焦點トハ撮影法ノ内ニ詳記ス付テ見ル可シ）ヲ見ルニ箱中ヨリ又中箱ヲ両手ニテ引出シ寫リヲ定ムル様ニナシタリ又上等製トナレバ布或ハ皮製ニシ

テ蛇腹暗箱ト名付ケ光線ヲ避クル為メゴム糊ヲ布キ風琴ノ如ク背後ハ螺旋ニヨリ自由ニ伸縮スル便利製ナリ箱中常ニ暗黒ニシテ例ヘ一毫ノ光リダモ内ニ洩ル丶等ノ事アリテハ如何程手際ニ撮影スレバトテ亂寫為メニ免レズ故ニ用フルトキハ十分ノ注意ヲナサヾルベカラズ

ピント硝子　暗箱ニ付属シタル一個ノスリ硝子板ニシテレンズニ撮集シタル物体位置ノ有趣或ハ寫リ鮮明ノ適度ヲ見定ムル為メ此硝子ニ下寫ヲ試ムルモノニシテ其必用ナルハ遠洋航海中ノ羅針盤ニ於ケルガ如シ此硝子ノ作用ニヨリテ良キ種板ヲ生ミ悪シキ種板ヲ生ムノ母トハナルナリ此硝子常ニ暗箱ノ背後ノ溝ニ挿込ミアレハ撮影スルニ望ミ物体位置見定メタル後取枠ト篏メ替ヘルナリ

取枠　暗箱ニ附属シタル必用ナル品ニテ前面ハ蓋ヲ上ニ引キ抜キ背部ハ前ニ開ク様ニナシタリ中ニ角形ニ切抜キタル一ノ板アリテ此レニ乾板ヲ挿入シ前後密ニ蓋ヲナシ暗箱ノピント硝子ヲ引抜キタル跡溝ヘ差シ替ヘ物体ヲ感受セシムル重要ナル枠ナリ又取枠ニ乾板二枚ヲ表裏ニ篏入ル様ナシタルアリ之レヲ最良ノ製トス旅行携帯用トシテ輕便ナリ而シテ取枠ハ光線ヲ注射セヌ様板間ノスキ等ナク蓋ノ甘クナキモノヲ注意シ求メサル可カラズ

三脚臺　暗箱ヲ安置スルノ臺ニシテ固キ木ヲ以テ製シタルナリ携帯製トシテ三脚共ニ三折トナリ容積低ニシタルアリ或ハ二ツ折又ハ至極堅牢製ニシテ其儘室内ニ使用スルモノアリ三脚ノ上ゲ下ゲ自由ニシテ此ノ上ゲ下ゲニ依

リテ物体ノ位置ヲ定ムルナリ

又操上臺ト名ツクル専ラ室内撮影トシテ用ユルモノアリ操上自由ニシテ實業家人物撮影ニハ至極適當ナリ

黒被布 ビロード等ノ精質ナル布ヲ以テ器械ト共ニ寫手ノ頭ヲ覆フ大サニ仕立タルナリ黒被布ノ要スルハ一ハレンスヨリ入リシ物体ノ光線ヒシト硝子ニ現出スルヲ鮮カニ見ンガ為メ又一ハ取枠ト差換ヘ蓋ヲ抜キ去リタル片抜キ跡ヨリ光線ノ注射ヲ防ク為メ是非ニ要用ノモノナリ

燒枠 種板ヨリ印畫燒付ノ際要スル器具ニシテ木製ノ枠トナシ裏面ヨリ二ツ切トナシタル蓋ヲ丁違ヒニテツナギ蓋ノ上ヨリ金物ノ彈機ニ押ヘ得ル細工トナシ其印畫ノ異動セヌ様ウ蓋ノ一部ヲ開キ燒付ノ進行ヲ見ル為メ製シタ

ルモノナリ

以上ノ器具ハ凡テ寫眞セントシテ必ス要スベキモノニシテ又常ニ物体種々ノ撮影ヲ試ミントスルモノハ豫メ寫眞闇室ナルモノヲ設ケ置カザル可カラズ

第二章 闇室之構造及闇室代用寫眞ランプ

寫眞術上用フル處ノ薬品ハ其概ヲ白色光線ヲ忌ムモノニシテ殊ニ乾板ノ如キ恰モ火ノ水ニ於ケルガ如シ然リト雖モ奇ナル哉此光線ヲ分解シテ紫紺青緑黄橙赤ノ七色トナルヤ其中下記三色ノ黄橙赤ハ少シモ感應セズ寫眞上名ツケテ之レヲ不感應光線ト云ヘリ此不感應ノ光線ニヨリテ以テ明ヲ取リ乾板幷ビニ光線ニ感シ易キモノヲ取扱ヘバ安

全ニシテ害ヲ受クルコトナキナリ寫眞術ニ於テハ他ノ光線ヲ全ク遮斷シ此不感應光線ノミヲ用ヒテ照ラシタル室ヲ名ヅケテ闇室ト謂フ故ニ闇室ヲ搆ヘントナレバ少クトモ一疊半或ハ二疊ノ間ヲ設ケザルベカラズ然シテ毫モ光線ノ中ニ洩レヌ樣ウ上下左右ヲ密閉シ日陰ニ向ツテ一尺四方ノ明リ窓ヲ取リ是レニ光線不感應色即チ赤色橙色或ハ黄色ノ玻璃板ヲ二枚戸トナシ嵌メ込ミ此ノ明リニヨリテ乾板及光線ニ感受シ易キモノヲ取扱フモノトス

闇室内ハ玻璃窓直下ニ引出シアル高卓子ヲ据ヘ此引出シハ乾板及ヒ藥品ノ光線ニ感染シ易キモノヲ入ルヽニ供シ窓ノ上或ハ背部ニ棚ヲ架シテ藥品ノ瓶子ヲ列ヘ置キ卓子ノ横脇ニハ框ヲ据ヘ皿等ヲ入ルヽ所トシ其下ニ壺ヲ置キ

水ヲ捨ツル處トス入口ハ二重戸トナシ一ハ引キ戸一ハ開キ戸トナシ光線ノ内部ニ通ズルコトナク出入リスルコトヲ得ル仕掛ケナリ

又闇室ニ常ニ備ヘ置ク可キ器類ハ左ノ如シ

皿　之レハ普通「バツト」ト呼ヒ坊間ニ販賣ス現象鍍金定着等凡テ此器ニヨリテスルヲ以テ少クトモ四個ヲ要ス玻璃製アリ陶器製アリ

「メートビン」液体量ヲ計ルノ器玻璃ニテ製シタル平口ノ外部ニ量目ヲ掘リタル瓶ナリ

水瓶　凡テ洗滌スルニ用フル清水ヲ入ルヽ器ナリ之レハ普通生花等ニ用フル水サシナドヲ代用セラルベシ

水壺　洗滌水ヲ捨ツルノ用ニ供シ闇室ニハ流盤ヲ要スル

ナレド之レヲ代用シテ省キタルナリ

漏斗　玻璃製或ハ陶器製ニシテ藥液ヲ濾シ又ハ瓶移シ等ニ必用ナル器ナリ

濾紙　藥液ヲ濾シ精良ナル液ヲ得ン爲メ特ニ製シタル粗分子ノ丸形切ノ厚紙ナリ

試驗紙　藥液調合ノ際其液ノ都合ニヨリ「アルカリ」性ナルカ酸性ヲ含有スルカヲ試驗スルノ赤青二色ノ細カク切リタル紙ニシテ試ムル處ノ藥液ニ赤色試驗紙ヲ浸シ青ク變ズル時ハ該液ノ「アルカリ」性ナル徵候ニシテ青色試驗紙ノ赤ク變ズルハ酸性ナル兆ナリ然シテ何レモ變色セザルハ中性ナリ

其他空瓶五六個ハ常ニ闇室ニ必ズ備ヘ置ク可キモノトス

闇室代用寫眞ランプ

闇室ナルモノハ日々多分ノ寫眞ヲ得ントスルモノ或ハ實業トシテナスモノニハ是非搆造ナシ置カザル可カラザレドモ初心者ノ試驗トシ又ハ練習中トシテ餘リニ造作ニ過ギ且ツハ相當ノ間ヲ費ヤサヾルベカラズ夫ヨリハ二枚挿ミノ取枠ヲ多ク購ヒ置キ乾板等ノ取扱ヒハ都テ夜中ニ扱フ方便利ナリ夜中トテモランプ蠟燭ヨリ直接ニ光力ヲ受ク可カラズ故ニ之レニ設ケタルノランプアリ名ヅケテ闇室用寫眞ランプト謂フ坊間ニ販賣ス此燈明ニヨリテ明日寫サント思フ枚數丈ケヲ今夜中ニ取枠ヘ入置キ明日撮影シテ直グ其晩ニ現象ニ掛レバ別ニ闇室ヲ設クル面倒ナク簡易ニ代用セラルヽナリ

第三章　乾板及種板法藥品幷藥品調合法

板玻璃ノ片面ニ藥液ヲ塗布シタルモノヲ干燥シ是レニ物体ノ光線ヲ集メテ感受セシムルモノヲ乾板トナス乾板ノ製造法ニ至リテハ固ヨリ經驗モナク又嘗テ之レガ我國ニ於テ製造セラレタリトモ聞カズ我國幾多ノ寫眞師ニ於テ悉ク之レヲ海外ニ仰キ船來品ニヨリテ以テ使用スルナリ

今時人々ノ寫眞術ヲ洽ク娯樂ニ供スルニ至リタルハ實ニ此乾板ノ發明アリテ永ク貯フトモ其功ヲ失ハザルノ致ス所ナリ逆ツテ此乾板發明以前ニ於ケル寫眞界ヲ歴史上觀察スルニ西暦千八百五十年「スコットアーチャー」ナル人當

時寫眞上ニ一大發明ヲナシタリ之レヲ濕板法トナス其法今猶稀ニ行ハルル處ノ普通硝子寫眞ナリ此法ニヨリテハ普通玻璃板ニ「コロヂオン」ヲ塗リ直チニ之レヲ硝酸銀液ニ浸シ其未タ乾カザルニ當リ暗箱中ニ於テ光線ヲ感受セシメ然ル後硫酸鐵ヲ以テ現象ヲ施セリ此法一大便法トシテ當時寫眞界ヲ獨占シタリシガ悲シキカナ其板ノ乾燥早ク乾燥スレバ直チニ其功力ヲ失フヲ以テ今ノ如ク各處ノ風景ヲ撮影スル等娯樂ニ供センナラバ廣大ナル器具外ニ出ス可カラザル藥品等各種ノ運搬ニ少ナカラザル勞力ヲ費ヤシ又幾多ノ思ヒヲ碎カザル可カラズ此所當路發明者ノ苦慮スル所トナリタリ此頃幸ヒニ寫眞好事家輩出シ餘暇ト資金トヲ投シテ乾燥シタル感光板ヲ製セシコトヲ計ソリ

熱心ノ極遂ニ感光劑ヲ支持スルニ「ツエラチン」ヲ用ヰテ頗ル良好ナル畫ヲ得ルコトヲ發明シ洽ク其稗益ヲ世ニ及ボスニ至レリ之レ實ニ乾板ノ發明ナリ此乾板ヲ齎ラシ各地ニ行キ撮影セントスルモ意ノ自由ニ撮影シタル後ハ再ヒ之レヲ齎ラシ歸リテ現象スルヲ得ルナリ左レバ一時大發明トシテ稱揚サレタリシ「アーチャー」氏ノ濕板法モ忽チ其領地ヲ削ラレ今ハ寫眞專業家ノ僅カニ之レヲ用フルアルノミ實ニ人智ノ靈妙驚クベキナリ

又乾板ノ大小ニハ手札、二枚掛、カビテ、八ツ切、六ツ切、四ツ切、半切、全紙等ノ種々アリ又製品ニ至リテハ「マリオンコンパニー」製アリ、アルボード製アリ、トーマス製等アリテ余ノ常ニ使用シテ最モ良キヲ知リタルハ(マリオン會社製ノ黄

札ナリ」乾札ハ光線ニ觸ル、時ハ其効力ヲ失フモノタルヲ以テ常ニ外部ヲ密包シ色札ヲ付ス故ニ其色札ヲ見テ内部乾板ノ質ヲ知ルナリ黄札ノ分ハ寫リ稍々緩ナレド初心者使用ニハ必適ノ良板ナリ

種板法藥品并藥品調合法

寫眞ニ使用スル藥品ハ光線ヲ厭フモノアリ空氣ニ觸レテ變色スルモノアリ日ヲ追フテ使用ニタヘヌモノアリ氣ヲ漏ラシテ滅力スルモノアリ實ニ使用上注意肝要ニシテ殊ニ現象液藥品ニ至リテハ一層ノ注意ヲ加ベシ(現象トハ藥品ノ作用ヲ以テ乾板面ニ陰畫ヲ現スコトニテ寫眞上眞ニ快樂ノ點ナリ

現象藥品　現象ニ用フル藥品其種多シ就中沒食酸現象液

及ビ「オキサラ現象液最モ普通ニ行ハレ其他各種ノ新現象藥踵ヲ接シテ發明セラレ盛ニ用ヒラル本章ハ余ノ經驗ニ照シ初心者使用ノ簡易ニシテ指頭ヲ汚ス憂ナク速ニ現象シ得ル沒食酸現象法ヲ示スモノニシテ即チ其原料藥品ハ

沒食酸　空氣及光線ニ觸レヌ樣注意スベシ

臭素アンモニヤ　密栓シテ空氣ニ觸レヌ樣注意ヲ要ス

亞硫酸曹達　白色固体ノモノ

強アンモニ水　劇藥ナレハ使用スルニハ口ニ呼吸器ヲ用ヒ眼鏡ヲ掛ケ然シテ取掛ルベシ又密栓ハ常ニ怠ルベカラズ

蒸溜水　普通ランビキシタル水坊間ニ賣レリ

右ノ四種ノ藥品ハ現象トシテ用ラベキモノニシテ其調合

分量ハ左ノ如シ

第一元液調合法　（日本秤量）

沒食酸	二匁五分
臭素アンモニヤ	二匁五分
亞硫酸曹達	十一匁
蒸溜水（亞硫酸曹達ノ溶解シ難キトキハ温湯ヲ用フベシ）	十四匁

右調合方法ハ蒸溜水ニ亞硫酸曹達ヲ溶解シ臭素アンモニヤヲ入レ其全ク皆溶解スルヲ待ツテ沒食酸ヲ投シ密栓シテ用フベシ

（注意）沒食酸ハ液体トシテ日ヲ觸ルニ從ヒ變色シテ功用ヲ薄ラグモノナレバ調合シテ早速用フレバ差支ナケレドモ數日間貯ヘ置カントナレバ調合ノ際沒食

酸ノミヲ省キ置クベシ然シテ現象ノ時右元液二匁程ニ對スル煙草ノ吸殻程ヲ混ジテ用フベシ

第二元液調合法

強アンモニヤ　四匁
蒸溜水　十六匁

右調合方法ハメートビンニテ先ヅ強アンモニヤ量ヲ試ミニ水ニテ量リ置キ其量目ノ處ノメートニ器ニテ印シ然シテ蒸溜水ヲ分量ニ測リ入レタル瓶ニアンモニヤヲメートビンノ印シ量ニ入レ速ニ蒸溜水ニ混ジ密栓スベシ

右ノ二液ハ則チ元液トシ此ヲ又多量ニ溶解シテ用ユルモノナリ其溶解量左ノ如シ

第一元液溶解液

第一元液　一匁
蒸溜水　十一匁

第二元液溶解液

第二元液　一匁
蒸溜水　十一匁

右第一第二元液及溶解液ハ瓶ヲ分チ間違ヒテ使用セヌ樣注意ニ注意ヲ加フベシ往々之レヲ間違用ヒテ大ナル誤リヲナスコトアリ

又現象ニ次キ用フベキ清淨液脱銀液原料調合法左ノ如シ

明礬
次亞硫酸曹達
蒸溜水

此水都合ニヨリ温湯ヲ用ヒテヨシ

清淨液調合法

明礬　二匁

蒸溜水　十五匁

明礬ノ溶解スルヲ待ツテ他瓶ニ濾シ清淨ナル液トナスベシ

脫銀液調合法

次亞硫酸曹達　八匁

蒸溜水　三十六匁

次亞硫酸曹達ノ溶解スルヲ待ツテ濾シテ以テ用ユベシ

第四章　雞卵紙塗銀法

雞卵紙一名「ペピールト」ハ一種酸性ヲ含ミタル卵色薄洋紙

ニシテ和製品アリ舶來品アリ

此レヲ光線ニ曝シテ感應スル藥液ヲ塗抹シ種板面ニ密接シ良好ナル陽畫ヲ得ルモノナレバ種板ヲ得ル以前ニ於テ感光液(一ニ銀液ト云フ)ヲ製シ鷄卵紙面ニ塗リ置カザルベカラズ感光液原料藥品及ビ調合法左ニ

硝酸銀　白色ノ固形体ニシテ光線ヲ受ケテ變色スルモノナレバ常ニ闇室ニ入レ置クベシ

蒸溜水

感光液調合法（多量調合ハ此比例ニ準ス）

硝酸銀　一匁

蒸溜水　七匁五分

闇室内ニ於テ硝酸銀ノ溶解スルヲ待ツテ濾スベシ誤ツテ普通調合液ノ如ク取扱ヒ手ニ着ケ或ハ覆サヌ樣注意スベシ何トナレバ此液ノ着キタル部分ハ光線ノ觸ル丶毎ニ爲色トナリ如何ニ洗滌ストモナカ〳〵元ノ如クナラヌナリ

右精良ナル感光液ノ出來上リタラバ闇室内カ或ハ夜中闇室代用寫眞ランプノ下ニ於テ塗銀ニ取掛ルベシ

而シテ茲ニ銀液ヲ塗ラントスル鷄卵紙ハ餘リ乾燥シタルモ宜シカラズ又餘リ濕氣ヲ帶ビタルモ宜シカラザレバ銀液ヲ塗ル以前卵紙ハ適宜ノ大サニ切リ裏面ニ濕ヒタル吸取紙ヲ當テ表面ハ白キ清キ厚紙ニテ押ヘ二三分間置キ取出シテ凡五分間掛ケ置キ稍ヤ濕氣ヲ與フルモノナリ

切斷シ置キタル卵紙ヨリ稍々大ナル皿(此皿普通バットノ加キ平形ニシテ周邊淺ク陶器製ニ限ル決シテ金物製ヲ用フベカラズ)ヲ取リ右ノ感光液(乃チ銀液)ヲ皿ノ中ニ二分五厘以上ノ深サニ容レ液面ニアル浮泡ヲ吸取紙ノ小片ヲモテ十分ニ取リ去ルベシ(サラデハ卵紙ニ氣泡ノ附着シテ白キ點ヲ殘シ見ルニ忍ビザル陽當ヲナスニ至ル)而シテ豫メ濕シ置キタル鷄卵紙ノ兩端ヲ持チ其ノ表面ヲ下ニ向ケ徐ロニ液面ニ浮ブベシ之レヲ浮べ置ク時間ハ一定シ難ク其良好ナル加減ヲ得ルハ自ラ熟練ト思慮トヲ要スルナリ左レド普通余ニ徴シテ時間ヲ概定スルニ

氣候若シ暑キトキハ　四十秒乃至一分時

氣候若シ寒キトキハ　一分時乃至一分半

而シテ鷄卵紙裏面ニ其液ノ浸入セザル樣注意スベシ又鷄卵紙液ニ浮ム中其周邊巻キ上ル事アリ之レ紙ノ乾燥セルニ歸スルモノナレバ其上ニ氣息ヲ吹キ掛ケ液ト密觸セシムベシ

浸シ終リタラバ之レヲ液面ヨリ取リ出シ其四隅ヲ普通ノ木綿針ニテ闇室内ニ掛ケ乾スベシ而シテ其滴下スル銀液ハ吸取紙ニ吸取ラシムナリ

其全ク乾キタル件ハ光線ニ觸レシメズ黒キ紙ナドニ包ミ貯フベシ

銀液ハ一タビ皿ニ注入シ置ケバ數枚ノ鷄卵紙ヲ浮べ得ベシト雖モ漸次其銀分ヲ減弱スルヲ以テ常ニ之レヲ補ハザルベカラズ之レガ爲メニ別ニ左ノ液ヲ備ヘ置クモノトス

硝酸銀　一匁八分

蒸溜水　七匁五分

卵紙五六枚ヲ浸シ終ル毎ニ右液三四滴ヲ加ヘ用フベシ又銀液ハ數回用フル際ニ酸性ヲ帶ブルコトアリ是レ卵紙ノ酸分ヲ殘スナリ斯ル時ハ炭酸加里液數滴ヲ加フレバ之レヲ消スヲ得ベシ

銀液時ニ變色シ漸次濁物ヲ含ムコトアリ斯ルドキハ沃度ポッタースノ小量ヲ加ヘ搖拌シテ日光ニ曝スベシ然ラバ漸次沈澱ヲ生ジ液ノ上部ハ全ク清澄トナルナリ故ニ濾シテ以テ再ビ用ヒラルヽナリ

此處ニ於テ諸子最モ不審ヲ抱カルナルベシ何トナレバ銀液タルヤ光線ニ觸ラスドキハ變色シ從ララ其功用ヲ失

フ恐レアルヲ以テナリ左ルヲ理ハ又奇ナルモノニシテ其手續ノ方法ニヨリテハ縱シヤ光線ニ曝ラストモ功用ヲ失ハズ却テ良結果ヲ得ルモノナリサレド又清澄タル銀液トナレバ光線ニ感スル恐レアルヲ以テ常ニ闇室內ニ取扱フベシ

雞卵紙塗銀法ハ初進者ノ難ズル所ナレドモ漸次之レニ慣ルヽニ從ヒ其適度ノ自得スルモノナレバ忽チニシテ又意トセザルニ至ル可シ

第五章　撮影法

宇宙萬物ノ物トシテ其美色ヲ有スルモノナレド此レヲ寫眞ニ撮影スルトキハ唯一樣ノ濃淡ヲ以テ現ハルヽモノナレバ其撮影セシト欲スルニ望ミテハ須ラク先ヅ樹物其他寫

サントスル凡テノ物体ニ於ケル位置及ビ位置光線ノ工合ヨリ遠近ノ差別ヲ左顧右眄十分ニ見極メ而シテ後最モ幽趣アル所ニ向ツテ撮影ヲ試ムベシ左ラデハ折角ノ活景モ死畫ト化シ我レナガラ見ルニ忍ビザルノ不愉快ヲ感ズルニ至ルベシ然レドモ之レ二三ノ經驗ヲ以テ自ラ會得セラルヽモノナリ

而シテ茲ニ最モ注意スベキコトハ太陽ヲ背後ニシテ寫スベカラサルト又太陽ニ面シテ寫スベカラザルト之ナリ何ソトナレバ太陽ヲ背後ニスレバ畫面平坦ニ過ギ幽趣ノ妙所ヲ欠キ太陽ニ面スレバ日光鏡玉ヲ直斜シテ乾板ヲ損フベシ

左レバ大凡位置ヲ見テ偕道具ノ組立ニ取掛ルベシ先ツ三

脚臺ノ一脚ヲ前方ニ突出シテ据ヘ己レノ身ヲ後ノ二脚ノ間ニ入レ暗箱ニハ鏡玉ヲ付ケテ此上ニ安置シ暗箱ノ上ヨリ黒被布ヲ掛ケ頭ノ上ヨリ覆ヒ前面レンスノ蓋ヲ開キ思フ所ノ物体ニ向ツテ器械ヲ据付クベシ此時暗箱ノ後部ニアルピント硝子ニ物体ノ眞逆様ニ映ズルヲ見ルベシ此ニ於テ物体遠近位置ノ適度ヲ大略ニ見定メサテ焦点ヲ合スベシ(焦点トハ度板ト摺玻璃トノ距離ヲ伸縮シ其影像鮮明ノ調度スルヲ云フ故ニ蛇腹暗箱ナレバ自分面ノ螺旋ヲ捻リ又引出シ製ナレバピントノ所ヲ以テ引出シ或ハ伸バシ或ハ縮メピント硝子ヘ顕出明瞭トナルヲ極ムベシ一ニピントヲ合スト云フ)焦点ヲ合スコト寫眞上最モ大切ナルモノニシテ一厘一毛ノ差違ヨリ鮮明トモナリ朦朧トモ

ナルモノナレバ此際能ク注意セザルベカラズ而シテ焦点ヲ合スヤ其ピント硝子ニ寫出スル所眞中ノ部分實ニ鮮明トナレド殘餘ノ部分或ハ遠近ノ朦朧ヲ免ルベカラズ茲ニ前記スル處メシボリ板ノ必用生ズルナリ[illegible]則チシボリ板ノ大小各種ヲ持來リ先ヅ其ピントニ寫ツル中心ノ最モ鮮明ナルヲ見極メ假リニ一番シボリヲ差込ミテ(レンス筒ニシボリ差込ミ穴ヲ設ケアルナリ)付テ見ルニ周圍不鮮明ノ分モ稍鮮明トナリ二番三番ト次第差換シバ段々ト鮮明ヲ現出シ詰リ穴ノ小ナルニ隨ヒテ物体ノ遠近四方ノ朦朧ハ愈々鮮明判然タルニ至ルナリ然シテピント硝子ニ寫出スル物体ハ大ナル穴ノシボリ板ヲ用フレハ明ク小ナル穴ノシボリ板ヲ差込メバ暗シ此明暗ニヨリテ乾

板ニ寫ル度ニ遲速アリ故ニ其風景遠近ノ差ニヨリ一番シボリニテ全ク鮮明トナルアリ又二番シボリニテ宜シキアリ之レ寫手ノ經驗ニヨリ速カニ了得セラル、ナリ

適宜ノシボリ板ヲ差シ込ミタレバ直チニ暗室ニ至リ乾板ヲ取枠ニ挿入シ持チ來ラザルベカラズ闇室ハ戸ヲ十分ニ鎖シ其周圍光線ノ射入シ居ラザルヲ見極メ黃赤硝子窓ノ下ニ取枠ヲ出シ而シテ乾板ヲ取扱フベシ乾板ハ十二枚ヲ六枚宛分チ別ニ包ミ一箱トナシ光線ヲ避クル爲メ不感應ノ紙又紙ヲ以テ嚴密ニ包ミアレバユル〱解キ出スベシ則チ取枠ノ前面（寫ル方）蓋ヲナシ背部（己レノ方）ノ蓋ヲ前ニ開キ乾板嵌板ノ中ニ在ルモノ動カヌ樣ニ治メ乾板藥品ノ塗リアル面ヲ見極メ此面ヲ下ニ向ケ取枠ニ挿入スベシ[illegible]

因日乾板ヲ取出シタルトキ板面ニ塵芥ノ附着シアルカ無キカヲ驗シ若シ付着シアラバ柔カキ羽箒ニテ拂ヒ落スベシ

取枠ニ乾板ヲ挿入シ終リタラバ光線ノ注射セヌ樣又ハ取枠中蓋ノ扱ケヌ樣ウ氣ヲ付ケ闇室ヨリ持チ出スベシ而シテ再ビピントヲ硝子ヘ顯レタル畫面ヲ撿査シ鮮明及位置ニ異動ナケレバ眼鏡ノ蓋ヲナスベシ（初心者ハ此時眼鏡ノ蓋ヲナスヿ往々忘ルヽモノナレバヨク〱注意スベシ）夫レヨリピントヲ硝子ヲ拔去リ其跡溝ニ取枠ヲ嵌メ替ヘ暗箱ヲ動カヌ樣靜カニ取枠ノ中蓋ヲ拔キ去ルベシ（此間始終黑被布ヲ暗箱ニ掛ケ置クベシ）之レニテ寫サントスル準備全ク整ヒタラバ機一髮鏡玉ノ蓋ヲ取リ直チニ光線ヲ乾板ニ感ゼ

シムルモノナリ[illegible]
鏡玉ノ蓋ヲ開キ乾板ニ光線ヲ感受セシムルコトヲ寫眞ニ於テハ露出ト云フ此露出ニ(則チ鏡玉ノ蓋ヲ開ケ放ス間)幾許ノ時間ヲ要スルヤハ寫サントスル物体及ビ板ノ大小及寫ス時刻則チ光線ノ強弱ニヨリ異ナルヲ以テ一定ニ謂ヒ難シ例ヘハ朝ハ午後一二時頃ヨリ二倍ノ露出ヲ要シ冬ハ夏ヨリ永キ露出ヲ要スルカ如シ各其時間ヲ異ニシ又物体ノ如何ニヨリ露出時間ノ異ナル一例ハ雲ト樹木其他ノ物体ヲ寫ス片ニアリ即チ樹木ノ充分ニ寫ル片ハ雲ハ已ニ感ジ過ギテ原板ニ如何ナル痕跡モ止メズ一様ニ白色トナルノミ去レバ雲ヲ寫スニ要スル露出時間ハ樹木其他ノ物体ノ殆ンド十分ニ一ナリ故ニ雲ノ有様ヲ景色ニ添ヘテ撮ラシ

ト欲セバ別々ニ撮影シテ二重焼付(第八章印畫法ニ詳記ス)ヲ行フベシ又シボリ板ノ大小寫リノ度ハ假令バ一番シボリニテ一秒ニ寫ルモノハ二番ナレバ二秒三番ナレバ四秒四番ナレバ七秒ト云フ割合ニテヒシトニ寫ル暗キニ随ヒ寫ル度ノ多クカヽルナリ

故ニレンズノ蓋ヲ取ルニ望ミテ先ヅ此等ノ事ヲ鑒ミ茲ニ午前十時頃寫サントシシボリ板ノ二番ヲ用ヒテ露出時間三秒ヲ要スル等ノ比例ヲ記得シテサテ外部風靜カニ枝葉動カザルヲ見テ除ロニレンズノ蓋ニ輕ク手ヲ掛ケ蓋ヲ取リ又直早ク蓋ヲナシ取枠ニモ刺蓋ヲ(中蓋)閉ツベシ此際乾板ハ已ニ光線ヲ感受シタレバ元ノ如ク取枠ヲ抜キ取リヒソトト差シ換ヘ光線ニ觸レヌヨウ闇室ニ持行キ影象ハ見

ヘズト雖モ之レニ藥品ヲ掛クルトキハ其影象ヲ形ハス此方法ヲ稱シテ現象ト云フ第五章ニ詳カナリ

人物撮影ニ至リテハ其順序景色撮影法ニ異ナラズト雖モ普通室内ニ於テ寫ストキハ非常ノ永キ露出ヲ要シ又完全ニ成功ヲ見サル例ナレハ別ニ寫眞處ナルモノヲ設ケサルベカラズ左ルヲ初進者ハ往々戸外ニ位置ヲ設ケ障壁樹木等ヲ後ニ扣ヘテ寫スコトアレドモ光線ヲ自由ニ利用スルコト能ハザルヲ以テ或ハ光線直接ニ頭部ヲ射テ紅顏綠髮ノ美少年モ白髮老人ノ如ク寫リテ不快見ルニ忍ビザルニ至ル

故ニ實業者タラン者ハ宜シク技師ヲ招キテ寫眞處ヲ搆造セザル可カラザレド普通遊戲ヲ以テ親戚朋友ヲ撮影セント欲スルモノハ宜シク褐色ノ紙ヲ貼リタル衝立ヲ製シ後楯トナシ(後楯トナスヘキモノニ布ヲ褐色ノ地ニ塗リ種々ノ景色或ハ室内家具ノ摸樣ヲ抽キタルモノアリ普通之レヲ書割ト謂フ購ヒ來リ框ニ張リ付ケ置ケバ孰レノ所ニモ持行キ使用スルコトヲ得ルナリ)天晴々赫々タル日ナレバ白布ヲ以テ上ヲ覆ヒ天曇ナレバ其儘ニ撮影シテ上結果ヲ得ルナリ

因日小兒ノ如キ動キ易キモノハ戸外光線ノ成ル可ク强キ處ニ於テ露出最モ迅速ニ寫スベシ

第六章　乾板現象法

物体ノ光線ヲ感受シタル乾板ハ取枠ニ入レタルマヽ闇室

内ニ持チ行キ現象ニ取掛ルナリ即チ先ヅ闇室玻璃窓ノ下或ハ闇室代用ランプノ下高卓子ニ左ノ器具ヲ陳列配置スベシ

バット皿　四個

メートピン　二個

第一元液溶解液
第二元液溶解液
（此液元液ト間違フベカラズ）

清淨液

脱銀液

充水水サシ　一個

今ヤ準備全ク整ヒタレバ闇室ハ密閉シ第一バット皿ニ適宜ニ水ヲ入レ置キ乾板ヲ取枠ヨリ取出シ此度ハ藥品塗抹

シタル片面ヲ上ニ向ケ徐ロニ第一ノ水皿ニ浸スベシ而シテ別ニ元液溶解液ヲ左ノ如ク調合シ置クベシ

第一元液溶解液　一匁

第二元液溶解液　一匁

右藥液ハ調合直チニ用ヒザレバ其功ヲ失フ故ニ此ノ場合ニ望ンデ調合スルナリ乃チ右ノ液ヲ一ノメートピンニテ測リ例ヘバ第一溶解液ヲメートピン一個ノ筋付タル下ヨリ三筋目ト計リ入レ又第二溶解液ヲメートピン又一個ノ横筋付ノ同樣ノ處ニ計リ即チ等分ニ之レヲ一ノ方ヘ混淆シ調合スルナリ

調合成リタラバ第一水皿ノ乾板ヲ第二空ラ皿ニ移スベシ此時乾板ヲ見ルニ白色謨ノ光線ニ感セヌ以前ト異ナラザ

ルナリ去レド此ヨリノ術實ニ寫眞技ノ快樂ヲ覺ユルナリ」
第二室皿ニ乾板ノ藥品面ヲ上ニ入レ調合シタル「ヌ−トピソノ藥液ヲ乾板面一樣ニ漏レナク急ニ流シ掛ケルナリ然シテ直早ク皿ヲ手ニ取リ振リ動カシ(藥液ノ平、等ニ滿板ニ浸ルヨウ)見詰メ居レバ影像漸ク顯ハレ又一ノ奇觀ナリ而シテ乾板ニハ物体ノ反對ニ現出スルモノニシテ最初ニ顯レ來ルハ强キ光線ヲ受ケタル處即チ野景ナラバ天空人像ナレバ顏衣服ノ白キ部分ニシテ皆悉ク黑色ニ現ハレ次デ淡色ニ陰影ハ殆ンド白色ヲ殘ズナリ此際狼狽セズニ透シ見テ微細ノ点全ク見ヘ難クナリ板面一帶ニ黑ズミ裏面ヨリ見テ白色ノ内畫面淡ク現ハルヲ度トシ皿ヨリ出シ水壺ノ上ニテ充分ニ水ヲ灌ギ掛ケ洗滌シ第三皿ニ清淨液ヲ入

レ之レニ現象シタル乾板ヲ浸スコト二分餘ニシテ取出シヨク之レヲ洗滌シ第四皿ニ脫銀液ヲ盛リ又此中ニ浸スナリ此クスレバ乾板ノ周邊ヨリ漸々ト白色ハ脫シテ透明影像ヲ現ハスベシ是ニ於テ尙數分間液中ニ置キ乾板ノ裏面ヨリ見テ白色ノ部分全ク脫シタラバ取出シテ又洗滌シ其儘闇室外ニ持チ出デ別ニバットヘナリ盥ヘナリ清水ヲ汲ミ其中ニ浸シ置クヿ四五時間然シテ此間水ハ常ニ新陳交替セシメ後引上ケ空氣流通ノヨキ處ニ立テ掛ケ乾スベシ決シテ火力等ニテ乾カスベカラズ乾ク時間ハ暖氣ナレバ六七時間ニシテ乾クナレド寒氣ノ時ハ十二時間以上ナラデハ乾カザルベシ然シテ先ノ液中元液溶解液ノ調合シタルモノハ再ヒ使用スルコト能ハザレド清淨液及脫銀液ハ

反覆數回用ヒラルベキナレバ元壜ニ戻シバット及ヒ使用セシ器具ハ凡テ清潔ニ洗滌ナシ置クベシ

因日乾板ニ陰畫ヲ現象スル迄ハ十分光線ヲ防クベキナレド清滌液脱銀液ヲ扱フニ至リテハ玻璃窓ノ赤硝子一枚丈ケヲ引キ開ケ茶硝子壹枚トシテ明リヲ取リテモ差支ナキモノナリ

第七章　種板仕上法及修整法

現象成リ既ニ全ク乾キ終リタル原板ニブルニスナル薬品ヲ布キ人像撮影ナレバ之レヲ修整シ初メテ種板ト名ヅクル陰畫ヲ得ルモノナリ初心ノ人ハ良キ原板ヲ得ナガラ此最後ノ抜ザニ於テ往々失敗スルモノナリ左レド左ニ記スル所余ノ最モ經驗ニ徴シテ得タルナレバ初心者ト雖モ之レニ從フテ行フトキハ容易ニ感得セラルベシ

白ブルニス

透明ナル松根原油ノ如キ粘キ質ノ液体ニシテ之レヲ布キテ以テ種板膜ヲ保護シ濕氣ヲ帶フルコトヲ防ク肝要ノ薬液ナリ若シブルニスヲ布カザル種板ヲ銀紙ニ接スルトキハ紙面ニ含ミタル銀分種板ノ膜面ヲ襲ヒ板面爲メニ赤色斑点ヲ生シ使用ニ耐ヘヌニ至ルナリ

之レヲ布クニハ原板ヲ肌膚ニ觸レテ快キ程ニ火ヲ以テ煖メ種板ノ寫リシ片面ヲ注意シ見ヘ上ニ向ケ板ノ隅角ヲ左手ノ指頭ニテ摘ミ右手ニ「ブルニス」瓶ヲ持チ板ノ中程ヨリ

徐々ト一面ニ行渡ラヌ所ナキヨウ流シ剩餘ノブルニスヲ右前ノ方ニ傾ケ元壜ニ返シ能ク滴ラシ切リヌル火ニ焙リ動カシナガラ乾カスベシ

前記巳デニ述ベタル如ク此術實ニ初心者ノ至難トスル處ブルニスヲ施クニ或ハコボシ或ハ平等ニ流レマワラズ虎班トナリ中程ニ丸キ穴場ヲ明ケ折角ノ原板モ亦用ユルニ詮ナカラシムル余初學ノ時之レヲ練習スルニ一枚ノ普通硝子ト一瓶ニ水ヲ容レ假リニブルニスニ擬シ之レヲ以テ稽古常ニ怠ラザリシカバ數日ヲ出デズシテ自ラ手際ヨク仕上ゲ得ル樣ニナリタリ

右ノ手順ヲ經テ茲ニ全ク種板ノ仕上ゲトナルナリ之レヲ名ツケテ寫眞陰畫ト云フ

景色ニ於テハ一ノ修整ヲ要セズシテ既ニ全ク種板トハナルナレド人物原板ニ至リテハ宜シク之レニ修整ヲ施サヽルベカラズ(併シ其儘修整ヲ施サズシテ印畫スレバトテ別段醜キモノナラズ初心者却ツテ修整セザル方宜ロシ)修整トハ惡シキ原板ヲ良好ナルモノトナスニハ非ズ唯良好ナル原板ヲシテ愈完全ナラシムルニアリ此レ又至難ノ一事初心者ノ大イニ苦ム所ナリ然リ而シテ又實ニ不熟練ナル修整ハ人身ノ肌膚ヲ變ジテ瓦石ノ思ヒアラシメ生々タル面想ヲシテ假面タラシム寧ロ修整ヲ加ヘサルニ如カズ去レド思慮ト熟練トヲ以テ精巧ニ行ヘバ人身肌膚ヲ發揮シ偶然生ヂタル欠点ヲ修正シ原板ニ於テ眞ト美トヲ過チタル点ヲ補修シ印畫ヲシテ齊々完全ナラシム依テ初心ノ人

ハナルベク拾ツベキ種板ヲ用ヒテ修整ノ練習ヲ勉ムベシサル内ニ自然ト巧ヲ得テ我レナガラ驚クベキ上達ヲ見ルベシ

種板修整法

前條述ブル如ク寫眞ニ於テハ肉眼ニテ見渡ス如ク天然ノ色彩ナク唯一様ナル色ヒ濃淡アルノミナレバ人身中黒子雀班、面粉刺、瘡痕等ハ非常ニ不快ナル黒點ト現ハレ且ツ顋骨突起シタル如キ狀ヲ呈スルコトアリ之レヲ巧ミニ修整スレバ美貌天眞ニ過キ修整ノ功亦實ニ夥シキヲ知ルナリ

修整ヲ施スニハ修整臺ナル器械アリ種板ヲ置クベキ下ニ反射器アリテ陰畫ヲ明カナラシメ上ニ覆ヒアリテ天上ヨリ射來ル光線ヲ防ク之レニ種板ヲ戴セ修整ヲ施スベキ部

分ニ至極細末トシタル烏賊甲ヲ指頭ニテテブルニスヲ布キタル上ヨリ磨リ付ケ其上ニ鉛筆ヲ用ヒテ修整スベシ

種板ニハ凡テ黒白ノ色反對ニ寫リタルモノナレバ印畫ニ白ク仕上ゲシト思フ所種板ニ於テ淡キトキハ其部分ヲ鉛筆ニテ塗リ其近傍ノ色合ト權衡ヲ取ルベシ又黒子雀班又ハ皺涙等白ク種板ニ現ハレタレバ此處黒ク塗付ケ平均ヲ取リタレバ自然ト和ラゲ此同シ方法ニテ明晴及濃淡ヲ自由ニ作リ陰陽ヲ微妙ナラシムルコヲ得ルナリ而シテ修整ヲナス前ニ感光紙ニ試燒ヲ爲シ置キ見較ベテ手入ヲナスベシ

修整ニ用ユル鉛筆ハHH.HHH.或ハHHHH.印ノ内ヲ適宜ニ使用スベシ而シテ長ク鋭ク削リ尚ホ尖頭ヲ鑢紙ニテ磨リ細ク

ナスベシ
又若シ修整ノ結果宜シカラザレバ一二滴ノテレメンチ油ヲ滴ラシ柔キ布ノ小片ニテ摩擦スレバ拭ヒ去ルコトヲ得ルナリ

第八章　印畫燒付法

印畫法ハ分ツテ三段トナス即チ感光紙ヲ原板ニ接シ光線ニ燒付シムルコト、其燒付タル紙ニ鍍金スルコト、之レヲ定着及洗滌スルコト今順次之レヲ本章及後章ニ說カン
寫眞器具ニ於テ述ベシ所ノ燒枠ヲ取リ既ニ全ク出來上リシ種板ヲ此中ニ膜面ヲ上ニ向ケ第四章ノ方法ニ就テ豫メ製シ置キタル感光紙(此紙ヲ扱フニハ手ヲ淸潔ニシ且濕ヒ

タル指ヲ觸ルベカラズ)ノ塗銀シタル面トヲ合シ其上ニ羅紗或ハ芥ナキ吸取紙ヲ當テ割蓋ヲ以テ押ヘ彈機ヲ嵌メ鐶シテ其表面ヲ光線ニ曝スベシ燒付之レナリ
之レヲ燒付クルニハ普通太陽光線直射ノモトニ於テセズ日陰ニスルヲ宜トス左レド原板ニハ淡キモノアリ濃キモノアリ淡キ原板ヨリ燒付ヲナストキハ薄弱ナル光線ニ曝スベク之レニ反シテ原板濃クシテ光線容易ニ透過シ難キモノハ直チニ日光直下ニ曝スモ妨ゲナシ而シテ此曝露スベキ時間ニ至リテハ實ニ一定ノ規ナク時々燒枠ノ裏蓋半面ヲ開キテ如何ガ寫リタルヤト燒付ノ進行ヲ見紙ニ物体ノ餘程濃ク燒付置クベシ(之レヲ陽畫ト云フ)何ントナレバ後ノ鍍金及定着ノ際ニ多少薄ラグモノナレバナリ

又雲ヲ景色畫ニ現ハスニハ大低二重燒付ヲ行ハザルベカラズ前章已ニ述ブル如ク雲ハ乾板ニ感シ早キモノナレハ普通ノ印畫ニテハ天空ハ唯白色ニノミ現ハルレバナリ故ニ景色ト雲トハ原板ノ外別々ニ寫シ取リ燒付ノ際ニ雲ヲ添フルナリ其燒付方法景色畫ニ於テ海上ヲ寫シタル如ク地平ニ直線ナル所ハ至テ容易ナレ氏樹木天空ト相錯雜シタル所ハ甚ダ面倒ナリ先ヅ景色原板ノ試燒ヲナシテ其印畫ノ上ニ雲ヲ寫シタル原板ヲ載セ其透明ニ見ヘタル樹木ノ景色ノ部分丈ケヲ濃キ墨ヲ以テ塗ルカ或ハ「ヘート」氏ノ黑ブルニスヲ塗リテ乾カシ空際ノ全ク白キ印畫ヲ二度ビ雲ノ原板ニ當テ淡キ光線ノ下ニ曝シ二重燒付ヲナスベシ

注意　景色ニ受ケタル光線ト雲ニ受ケタル光線ト齟齬矛盾セザル樣ウ燒付ノ時十分注意スベシ

雲ノ原板ハ玻璃或ハ紙等ニテ製シ販賣シタルアリ之レヲ購ヒ置ケバ孰レノ場合ニモ用ヒラルベシ

又人物寫シ漸淡畫ハ温雅ニシテ趣味アルモノナリ之レヲ行フコト初心者タリトモ容易ナリ其方法ハ漸淡玻璃ニテ坊間ニ販賣シタルモノアレバ購求シ種板ヨリ燒付ノ際燒枠ノ上部ニ此玻璃ヲ覆ヒ戴セ日陰ノ光線ニ曝シ燒付ツルナリ漸淡玻璃トハ護謨布ノ黑キモノヲ楕圓形ニ切リ拔キ二枚ノ板硝子ニ挾ミ貼付ケタルモノニシテ此處ヨリ光線屈折シテ纔入シ緣ニ至リテ漸々淡色ヲ呈ス漸淡玻璃ヲ一見スレバ直チニ了得スルモノナリ

丸形角形雪輪ナド形焼付ハ皆護謨布ノ或ハ紙ノ其形ニ切リ製シタルモノニシテ至極ク廉價ノモノナリ就テ求ムベシ此使用法ハ焼付ノ際種板ト感光紙トノ間ニ挾ミテ曝露スルナリ

陽畫焼付ノ定度ヲ見タラバ焼枠ヨリ取リ出シ成ルベク光線ヲ避ケ箱ノ中或ハ本ノ間等ニ挾ミ置クベシ然シテ後鍍金ニ掛ルナリカクスレバ種板一枚ニテ感光紙何程ニテモ焼付ケ得ラルベシ

第九章　印畫鍍金法及定着法

鍍金法トハ死色ノ印畫ヲシテ色ヲ出シ愈々鮮明發揮セシムルノ法ニシテ其色ヲ永ク紙ニ保タシムルモノナリ

鍍金セント欲スル以前ニ於テ左ノ藥液ヲ調合シ置カザルベカラズ

鹽化金液調合法

鹽化金（一名ゴールド十五ゲレン入）　一管

蒸溜水　十五匁

此調合法ハ密栓ノ色瓶ニ蒸溜水十五匁ヲ計リ鹽化金ハ普通玻璃管ニ入レ販賣スルモノナレバ用ユル時望ミ鑢ヲ以テ之レヲ傷ツケ紙上ニ之レヲ挫キ鹽化黄金ノ結晶ヲ取出シテ蒸溜水ニ投入シ密栓シテ貯フ之レ鹽化金ノ元液ナリ

鍍金液調合法

鹽化金液　一匁

硼砂　一匁五分餘

温湯　百二十匁

此調合法ハ先ヅ一匁五分餘ノ硼砂ヲ百二十匁ノ温湯ニ溶解シ濾紙ニテ濾シ冷却スルヲ待チ鹽化金液一匁ヲ混淆シ一時間以上ヲ經テ用フベシ

今ヤ鍍金セントスル印畫ハ思ヒノ大サニ其周邊ヲ截斷シ先ヅ水ヲ盛リタル皿ヲ光線最モ淡キ所ニ持チ行キ之レニ印畫ヲ浸シ一枚次ニ一枚ト互ニ密觸セザル樣ウ之レヲ上下ニ振リ動カシタレバ紙ニ附着シタル銀分ノ「コロヽセル」脱シテ見ル見ル中ニ水中忽チ白色トナル故ニ三四回モ水ヲ取換ヘ洗ヘバ白色去リテ淸水トナルベシ(此時畫面ニ淡キ白キ膜ノ掛リタル如ク銀分ノ上部ニ殘ルヿアリ斯ルトキ

ハ和カキ刷毛ニテ一枚毎ニ洗フベシ)之レヲ度トシ液金液ニ浸スベシ

(注意)鍍金及定着ノ際ニモ成ルベク闇室黃窓ノ下ニ扱フベシ

鍍金鍍ハ皿ニ盛リテ先キノ印畫ヲ水ヨリ脱シ一枚宛能ク滴ラシ凡ソ五六枚ヲ順ニ浸スベシ暫クスレバ最初浸シタル一枚已デニ鍍金ニ感シ初メ畫面ハ紫黒色ヲ帶ヒ來ルベシ其全ク紫黒色トナリタルヲ度トシ液ヨリ引上ゲ別ニ淸水ヲ盛リタル皿ニ順次感シタルモノヨリ投入シ宜シク此中ニ洗滌シテ定着ニ掛ルベシ

鍍金ヲ行ヒ了リテ若シ印畫ニ班点ノ存スルコト有ルハ之レ印畫鍍金皿中ニアルヿ密觸セシ結果ニシテ其失望如何

ヅ故ニ務メテ密觸セザル樣ニ皿ヲ輕ク動カシ液ヲ少シ宛浸立タシムベシ又印畫ニ觸ルヽ時ハ常ニ手ヲ清潔ニ洗ヒ鍍金皿ハ一定シ置キテ決シテ他ニ用ヒザルヲ要ス

印畫定着法　定着トハ印畫ヲ紙ニ永ク固着セシムル法ナリ[illegible]

印畫ヲ定着セシムル上ナラバ先ヅ左ノ法ニ因テ定着液ヲ調合シ置カザル可カラズ[illegible]

定着液調合法

次亞硫酸曹達　五匁

蒸溜水（温湯ヲ用ヒテモ差支ナシ）五十匁

右溶解スルヲ待ツテ漉シテ以テ用フベシ

印畫ノ鍍金既ニ終リ洗滌シタルモノハ水滴ヲラシ一枚宛引

上ゲ定着液ヲ入レタル皿ニ浸スナリサスレバ印畫ノ稍薄ラギ即チ普通寫眞色トハナルナリ[illegible]

印畫ノ此液ニ浸シ常ニ密觸セザルヤウ注意シテ上下ニ皿ヲ搖拌シ凡ソ十五分ノ後其色ノ快クナリタルヲ見テ液ヨリ出シ外ニ持出デ清水ヲ以テヨクヨク印畫ヲ洗滌シ別ニ水ヲ汲ミ置キタル盥又ハ桶ニ浸スコト五時間餘時々水ヲ新陳交代セシメ印畫ニ附着シタル定着液ノ次亞硫酸曹達ヲ脱セシムベシ此際ハ最後ノ洗滌トシテ最モ大切ナリ何トナレバ若シ浸ス時間ノ早クシテ引上ゲタルトキハ次亞硫酸曹達ノ未タ全ク紙面ヲ脱セザルガ爲メ不快ニ變色シ日ヲ追フテ褪色スルモノナリ

印畫ハ水中ヨリ出シ吸取紙ニ挾ミ水分ヲ去リ未ダ半分乾

カサルトキヲ以テ糊ニテ寫眞臺紙ニ貼付スルナリ此法後章ニ詳ナリ

第十章　印畫貼付法及艶出シ法

印畫ヲ臺紙ニ貼付スルヤ往々密着セザルモノ或ハ氣泡ヲ存スルモノ歪ミタルモノ又ハ彼ニ固着シテ此レニ癒着セザルモノ有ルヲ見レバ之レ皆用フル處ノ糊ノ善悪ニ歸スルモノニシテ醜キヿ折角ノ好畫モ爲メニ價値幾分カ割カルヽニ至ル左ノ法ニヨリテ之レヲ行ヘバ前記スル處ノ瑕瑾ナク且ツハ印畫ヲ反ラス等ノ患ナカラシム

澱粉貼付スル毎ニ新シキヲ製シテ用ユルニ如クナシ殊ニ氣候暑キ時ハ腐敗シ易ク用ニ供シ難シ之レヲ製センニ

ハ澱粉一食匕程ヲ豫メ湯ヲ以テ温メタル鉢ニ入レ微温湯二食匕程入レテ攪拌シ小塊ナキニ至リタラバ更ニ熱湯ヲ注入シ適宜ニ一ハ稀薄ニ一ハ稍濃ク溶解シテ用フベシ

此用法ハ陽畫ノ仕上リテ全ク乾カザルヲ取リ適宜ニ臺紙ニ準シテ其四邊ヲ截チ玻璃板上ニ裏面ヲ上ニ載セ其周邊ハ稍々濃キ糊中程ハ稀薄ナル糊ヲ用ヒテ体裁ヨク貼付スルナリ

印畫艶出シ法

印畫ニ光澤ヲ與スル法ヲ「バニツシユイシヤ」ト云フ印畫ヲシテ一層ノ趣キヲ帶ビサシム此レニ用フル器械アリ「バニツシヤド」ト名ツク金属製ノモノニシテ普通綿操器械ノ仕掛ニテ火力ヲ以テ之レヲ熱シ印畫ヲ操出スナリ

此法ハ印畫ヲ臺紙ニ貼付シテ既ニ乾キタルモノニ
[illegible]カ「スチール」石鹸[illegible]五[illegible]匣[illegible]
[illegible]一酒、[illegible]精[illegible]七匁五分[illegible]
右ノ混合液ニ「ブラチル」ヲ浸シ之レニテ印畫面ヲ拭ヒ未ダ乾カザルモノヲ豫メ熱シ置キタル「バニツシヤー」ニ掛ケ漸々壓力ヲ増シテ數回之レヲ操出スベシ此クスレバ畫面ハ光澤麗[illegible]印畫[illegible]テ愈々高尚優美ナラシム之レニテ陽畫ヲ仕上ゲタリ完全無缺ナル紙寫眞ノ出來上リタル[illegible]

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

乾板ノ未ダ世ニ發明セラレザル以前ニ於テ「スコットアーチャー」氏ノ大發明トシテ專ラ世ニ行ハレシモノハ濕板法ニシテ即チ硝子寫眞コレナリ其功力ハ乾板上既ニ述ベシ如ク濕板法ニ至リテハ乾燥シテ後用フル可カラザルコハ遠距離ノ名地ニ齎ラシ撮影シテ持歸ルコ能ハザルモノナレド其方法ニ至リテハ實ニ簡易ニシテ又其原料ノ廉ナルコ普通乾板法ノ十分一ダモ要セズ左レバ接近ノ風景及人物等ヲ撮ルニハ又樂ミ多カルベシ而シテ其硝子面ニ撮影シタルモノ稍高尚ニシテ自然ニ幽趣ヲ備フルモノナリ今之レヲ左ニ錄ス敢テ贅言ニアラザルベシ

[illegible]

濡板寫眞法

硝子寫眞ニ於テモ其器具ノ組立及物体撮影法ハ乾板寫眞ニ異ナラズ而シテ之レニ要スル器具藥品ハ即チ左ノ如シ[illegible]

竪バット（陶器製ニシテ其ツマミ口ヲ設ケ立テタ[illegible]ルマヽ硝子ヲ投ゲ込ミ用フルナリ[illegible]

[illegible]サ[illegible]ニシ[illegible]竪バットノ附屬品ニシテ硝子板ニ藥品ヲ塗抹シバットニ入ルヽ時之レニ掛ケ[illegible]指頭ヲ汚ガサヌ様ウ製シタリ[illegible]

普通バット[illegible]二個

コロヂオン合搭[illegible][illegible]此液揮發シ易シ故ニ之ニ設ケタルノ瓶[illegible]アリ虚無僧瓶ト言フ二重栓トナシ其揮

[illegible]發ヲ防ク之レニ移シテ常ニ干燥ナル處[illegible]ニ蓄フベシ[illegible]

硝酸銀[illegible]

硫酸鐵[illegible]空氣ニ觸レテ變色シ易シ密栓シ蓄フベシ

[illegible]シ

次亞硫酸曹達

黒ブルニス

撮影セントスル硝子板ハ瑕瑾ナキ光澤アル薄キモノヲ購ヒ來リ「アルコール」ニ浸シタルモノヲ以テ十分ニ拭ヒタル後空カラ切ニ又之レヲ磨キ一点ノ織リモ板面上ニサカラシムベシ玻璃ヲ磨クコトハ硝子寫眞上實ニ大切ノ事柄ニシテ決シテ輕忽ニ看過スベカラズ一[illegible]

既ニ磨キタル硝子板ヲ闇室ニ持チ行キ其一隅ヲ指頭ニ取リ恰モ第七章原板ニ「ブルス」ヲ布クガ如ク除ロニ此板上ニ合格魯胃謨ヲ布キ其薬面ヲ上ニサシ当ガヒ直チニ竪ハットニ在ル沃度化銀液ニ浸スベシ

沃度化銀液調合法「日本秤量」

硝酸銀	五匁
蒸溜水	四十匁
沃度加里	少量

右溶解シテ攪拌シ暫ク置イテ悪質物ノ瓶底ニ沈澱シ透明体トナリタルトキ闇室内ニ濾シテ用フベシ

合格魯胃謨ヲ塗抹シタル硝子板ハ直チニ沃度化銀液中ニ浸シ置キサテ闇室ヲ出テ器械ヲ持ッテ撮影ノ位置ヲ定ム

寫眞之秘密

ベシ

位置定リタレバ取枠ヲ闇室ニ持チ入リ乾板ヲ扱フ如ク其薬面ヲ下ニ取枠ニ挿入シ闇室ヲ持チ出テ、乾板撮影法ニヨリテ撮影スベシ

之レヲ現象スルニ左ノ液ヲ調合シ置カザル可カラズ

現象液調合法

硫酸鐵	三匁
醋酸	一匁五分
蒸溜水	五十匁

右調合法ハ硫酸鐵ヲ蒸溜水ニ溶解シ之レヲ濾シ醋酸ヲ混シテ用フベシ

今ヤ現象セントスル板ヲ薬品面ヲ上ニ於ットニ入レ現象

液ヲ急ニ流布スベシ然ルトキハ板面ノ畫乾板ト異ナリ至ツテ急ニ現ハルヽナリ此現象適度二三失敗ノ經驗ヲナサヽレバ稍々了得シ難シト雖モ乾板ノ如ク黒ベミトナル迄置カズ畫面ノ浮ビタルトキ直チニ引上ゲ洗滌スベシ現象足ラザレバ畫面薄ク現象過クレバ茫藹トナルベシ

現象液ヨリ引上ゲ再三水洗シタル硝子畫ハ左ノ液ニ浸スベシ

脱銀液調合法

次亞硫酸曹達　廿匁

蒸溜水　三十匁

右調合法ハ次亞硫酸曹達ノ溶解スルヲ待ツテ濾シ用フベシ蒸溜水ニテ溶解シ難キトキハ温湯ヲ用ヒテ妨

ゲナシ

硝子畫ヲ此中ニ浸スヿ一分餘其白キ部分ノ全ク脱シ畫面ノ鮮明トナルヲ見テ液ヨリ引上ゲ十分水洗シテ闇室外ニ持チ出シ更ニ清水ニ浸シ温火ニヨリテ除ロニ乾カシ其全ク乾キタルトキ其膜面ニ黒「ブルニス」ヲ合搭魯胃謨ヲ布キシ倒ニヨリテ裏面ニ液ノ廻ハラヌヨウ靜カニ塗布シ火力ニ依リテ之レヲ乾カシ紺紙ヲ當テ桐小箱ニ入ルヽトキハ茲ニ硝子寫眞ノ完全仕上リタルナリ

寫眞之秘密終

寫眞之秘密附錄

第一章　アリスト紙印畫法

アリスト紙トハ既成感光紙ニシテ其光澤陶品ノ如ク前者普通雞卵感光紙ニ優ルコト數等然シテ之レヲ鍍金スルコト定着スルモ其液体調合量ハ稍々異ナレリ左ニ之レヲ示シテ諸子ニ樂ミ多カラシメントス　アリスト紙ハ濕氣ヲ嫌フ故ニ燒付ノ際ト雖モ常ニ吸取紙ヲ當テ且少シク空氣中ニ濕氣ヲ帶ビタル際ハ護謨布ヲ當テ行フベシ

アリスト鍍金液調合法

鹽化金液　一匁
醋酸曹達　二匁六分

蒸溜水　百五十匁。

重炭酸曹達一匁程ヲ加ヘテ該液ヲアルカリ性トナス
ベシ

定着液調合法

次亞硫酸曹達　五十匁

蒸溜水　七十匁

右調合法ハ次亞硫酸ノ溶解スルヲ待ツテ濾シテ用フ
ベシ

アリストー紙ハ水洗シタル後其膜面ノ粘質ナルガ為メ塵
芥ノ附着セサルヨウ又夏日ハ膜面柔カナルガ為メ爪頭等
ニテ害セヌヨウ注意肝要ナリ

第二章　原板ノ瑕瑾及治療法

現象ノ時乾板膜ニ皺ヲ生スルコトアリ之レ暑キ時ニ現象
シ或ハ現象液ノ温ナル等ヨリ生ズル結果ニシテ斯ルトキ
ハ乾板ノ水ニ浸ス前ニ蠟ヲ其周様ニ塗リ付ケ若シハ現象
液ニ酒精ノ少量ヲ混ジ或ハ普通ノ水ニ代リニ含利盬ノ強
液ヲ用フレバ之ノ瑕瑾ヲ避クルヿヲ得ベシ

又定着或ハ洗滌ノキ皺ヲ生シタラバ定着液ニ水ヲ加ヘテ
稀薄トシ若シハ現象ノ後五分間程「クロム」明礬液中ニ浸
スベシ

原板面ニ透明ノ班紋ヲ生スルヿアリ之レ現象ノ際氣泡附
着シ或ハ露出ノ際乾板ニ塵埃ノ付着シタルガ為メニテ之
レ等ノ疾病ヲ治療スルニハ修整ノ際鉛筆ヲモテ如何樣ウ

キモ成スヿヲ得ルナリ左レド先ツ現象スルノ際氣泡等附着スルヲ見レバ駱駝毛ノ刷子ニテ液中ノ乾板ヲ輕ク撫シ又乾板ヲ取枠ニ收ムル前ニ能ク掃フベシ

同色ノモノヲ原板ニ濃淡ノ不齊色ヲ呈スルコトアリ之レハ現象液ノ一齊ニ行渡ラザリシニヨル故ニ現象ノトキ必ス十分ニ注意シ液ヲシテ滿板面ニ流布セシムベシ

乾板ヲ不潔ナル空氣或ハ濕氣アル處ニ貯ヘ置キタルトキハ現象ノ後金屬色ノ光リヲ原板ニ殘スコトアリ之レ一ノ病トナツテ印畫ヲ妨クルモノナレバ乾板ナルモノハ常ニ空氣清潔ニシテ乾燥ナル處ニ貯ヘ置クベシ

人物撮影ニ瞳光ノ處原板ニハ黒點トナリ印畫ニ複寫シテ全ク白色ヲ現ハシ醜キモノトナルヿアリ斯ルトキハ此部分

ノ原板膜ヲ針頭等ニテ破リ鉛筆ヲ以テ薄ク修整シテ和ラゲ得ルモノナリ

乾板ニ光線ノ強キモノヲ永キ露出ヲ以テ寫シ込ミタルトキ感光膜ニ映ズルヤ否ヤ半透明ノ膜中ヲ屈折シテ玻璃ノ背面ニ撤シ其面ノ反射ニヨリテ再ビ光線ハ乾板ノ表面ニ散光シ感光膜ヲ犯シ爲メニ模糊トシテ自然ヲ害フヿアリ之レヲ防クニハ黒色ノ紙ヲ水ニ浸シヤヽ乾キタルトキ「グリスリン」ニテ乾板ノ背面ニ貼リ付ケ撮影スベシ其紙ハ現象ノ時剝キ取ルベシ

第三章　印畫ノ瑕瑾及治療法

印畫ヲ仕上リテ後水洗シテ粟粒ノ如キ處ヲ生ジ凸起シテ此

所遂ニ斑点トナリ醜キヿアリ之レ印畫ノ鍍金及定着ノトキ密觸セシニ原ヅクモノナレバ印畫ト印畫トハ常ニ液中ニ離間シテ此間液ヲ流通交代セシムベシ

鍍金シテ適當ト見留メタル色相モ定着ニ掛レバ其色著シク薄ラグヿアリ之レ定着液ノ次亞硫酸曹達ヲ多量ニ用ヒタルカ又ハ鍍金スル前ニ水洗ノ足ラズシテ銀分ノ畫面ヲ全ク脱セザルニヨル故ニ之等ノ處精密ニ注意シ水洗及適量肝要ナリ

印畫ノ鍍金付カズシテ仕上ゲノ後淡茶色トナリ見ルニ忍ビザルコトアリ之レ鍍金液ノ酸性ヲ帶ビタルニヨル故ニ是等ノトキハ硼砂及重炭酸曹達ヲ混シ試驗紙ヲ試ミテ中性或ハアルカリ性トナスベシ

鹽化金分器底ニ沈澱シ充分ニ鍍金ヲ行フコト能ハザルコトアリ或ハ鍍金ニ長キ時間ヲ費ヤスコトアリ斯ルトキハ七八十度ノ温度ヲ液ニ與フベシ印畫褐色トナリ或ハ黄色ヲ帶ブルコトアリ之レ感光紙ヲ余リ長ク貯フルカ或ハ濕氣ヲ帶ビタルニヨル故ニ之レヲ貯フルニハ固ク巻キ黒布ヲ以テ之レヲ覆ヒ闇處ニ置クベシ

又水洗ノトキ硝酸銀ヲ含ミタル濁水ニ長ク印畫ヲ浸シタルトキ或ハ次亞硫酸曹達ノ鍍金液ニ混シタルトキニモ斯ル結果ヲ生スルコトアリ皆ナ之レ自ラ招キタル禍ヨク〱注意スベキコトナリ

印畫ニ明暗ヲ顯サヾルコトアリ之レハ銀液ノ弱キニ原ヅク銀液ノ弱キハ印畫ニ斑紋ヲ生ジ又長キ焼付時間ヲ要シ

而シテ完全ナルモノヲ得難シ此場合ニハ唯々ニ銀液ヲ強クスルヨリ外ナカラン [illegible]

寫眞之秘密附錄終

明治廿八年十月卅一日印刷
明治廿八年十一月七日發行

定價金五拾五錢

著作兼發行者　大阪府丹南郡狭山村大字半田第十六番屋敷　西脇稻次

印刷者　大阪市東區道修町二丁目第百番屋敷　濱田正夫

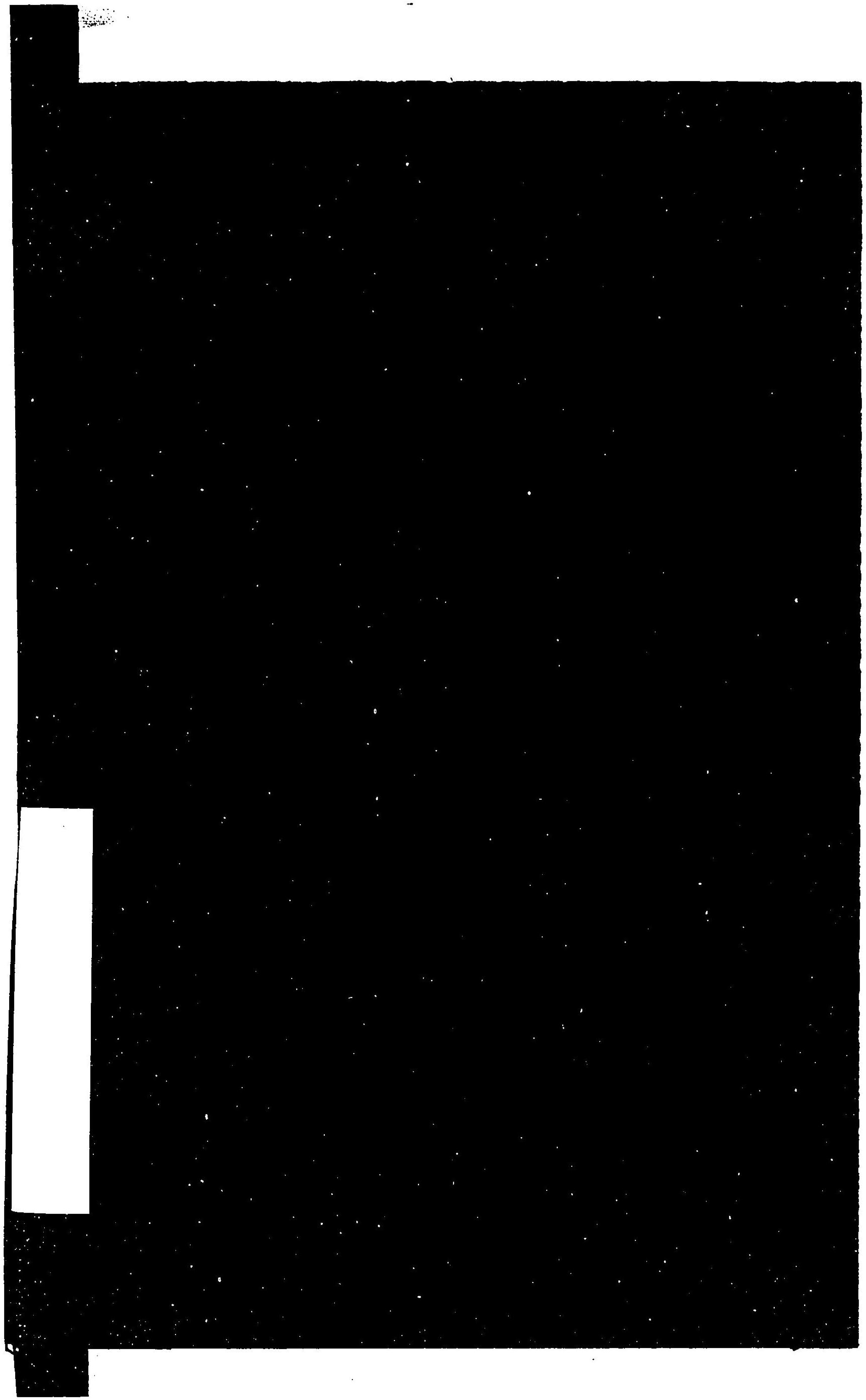
發賣所　大阪市東區順慶町四丁目　矢島誠進堂

[illegible] 大[illegible]
大阪市[illegible]丁目

印刷者 [illegible]田[illegible]夫
大阪市[illegible]三丁目

[illegible] 西[illegible]次
[illegible]

[illegible]



特46
187

写真之秘密

国立国会図書館

072098-000-2

特46-187

写真之秘密

西脇　稲次／著

M28

CEE-0126